

# 宮川ひろさん 名誉市民に

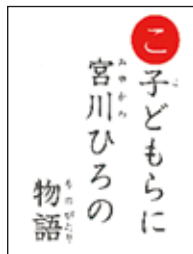
市は12月11日（金）、市議会12月定例会の同意を得て、児童文学作家の故・宮川ひろさんを本市8人目の名誉市民に決定しました。

宮川さんは大正12年、利根郡東村千鳥（現在の利根町千鳥）で生まれ、昭和44年に『るすばん先生』で児童文学作家としてデビュー、教員の経験を生かして小学生の学校生活を描いた『先生のおうしんぼ』はベストセラーとなりました。そのほか、利根沼田を舞台にした『春駒のうた』など多数の作品を残し、昭和53年には『夜のかげぼうし』で第8回赤い鳥文学賞、その後も数々の児童文学賞を受賞されています。一昨年9月

には、多くの市民に親しまれてきた郷土かるた「改訂きりえ沼田かるた」に仲間入りしました。

約50年間、日本の児童文学作家として第一線で活躍され、ふるさとへの思いを込めたたくさんの作品を残した功績を称え、顕彰します。

市は市民、または本市にゆかりがあり、社会の進展や学術文化の振興、本市発展に優れた功績があった人に名誉市民の称号を贈っています。これまで久米民之助さん、星野あいさん、細谷浅松さん、林照壽さん、生方たつへさん、米倉大謙さん、小野忠孝さんの7人が受けています。  
問合せ 秘書課秘書係 ☎内線4002



「改訂きりえ沼田かるた」の札として親しまれている

## 母のこと

宮川健郎さん（長男）

1923年、母が生まれた千鳥（現在の利根町千鳥）は、ほんとうに小さな村です。20歳になる前から東京に出て95歳で亡くなりましたが、村での子ども時代が母のすべてを作りました。

代表作で映画化もされた『春駒のうた』（1971年）は、村を舞台にした作品です。母は、学校を書いた児童文学作品を数多く残しましたが、学校を一つの村、学校の廊下は村の街道と考えたのだと思います。教室は家、先生と子どもたちは家族になり、そこに現実の「学校」や「教育」の新しい捉え直しが生まれました。

このたび、思いがけず、ふるさとの名誉市民にご推挙いただき、母は、きっと喜んでいるはず。ありがとうございます。

## 宮川ひろさんの本を読もう

問合せ 図書館 ☎ 22-0551

図書館で貸し出しできるおすすめを図書館員が紹介。宮川さんをはじめ、市にゆかりのある作家のコーナーもあります。



『るすばん先生』 ポプラ社 図書館員H

「3年3組にサンキュウのるすばん先生がやってきた」。産休教員の木村先生とクラスの児童とのふれあいを描いた作品で、昭和の子どもたちの生き生きとした姿が鮮明に浮かび上がります。宮川さんのデビュー作で、ご自身の産休教員の経験をもとに書かれました。



『びゅんびゅんごまがまわったら』 童心社 図書館員T

こうすけのけがが原因で遊び場には鍵が掛けられてしまい、開けてほしいと校長先生にお願いすると、びゅんびゅんごまを手渡されました。「まわせるようになったら、たのみもきこうじゃあないか」。あまのじゃくな校長先生とこうすけたちの勝負の行方は。



『春駒のうた』 偕成社文庫 図書館員O

少年と祖父の屈折した心を開くために奮闘した女教師は、同じ小学校教師であった作者と重なり興味深いところ。話の舞台になった旧利根村の自然の美しさと方言を織りまぜた、郷土色豊かな作品となっています。1986年に映画化もされた代表作の一つです。